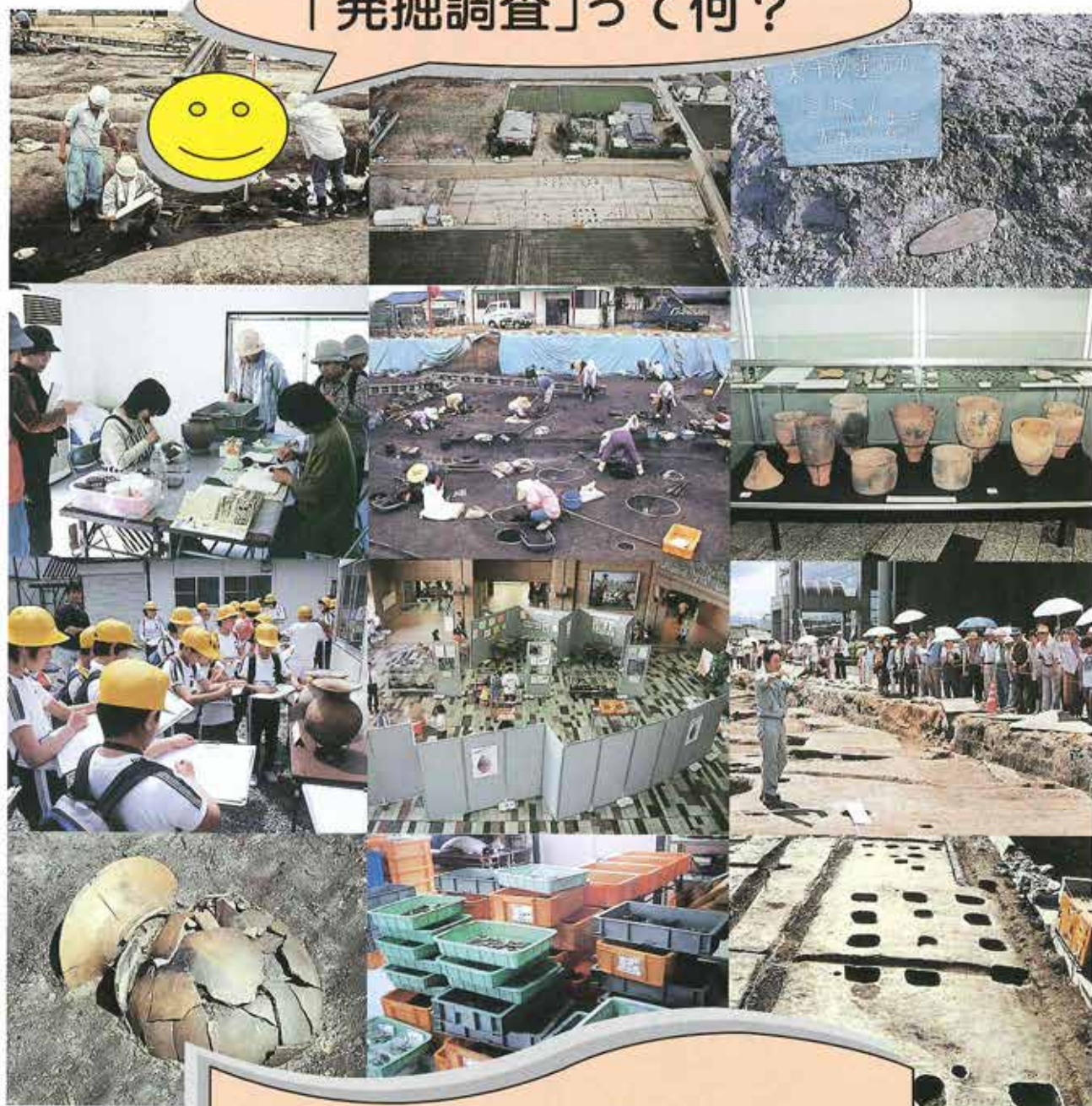


第15号

# むかしの高松

2002.3

はくつちょうさ  
「発掘調査」って何？



皆さんは、「発掘調査」を御存知ですか。テレビや新聞では見たけれど、実際に目にしたことのない人も多いと思います。でもよく見れば、高松でもどこかで発掘調査に出会えます。今回は、この発掘調査について簡単に説明します。



発掘調査は、地中に埋まっている遺構や遺物を掘り出して、調査をすることです。

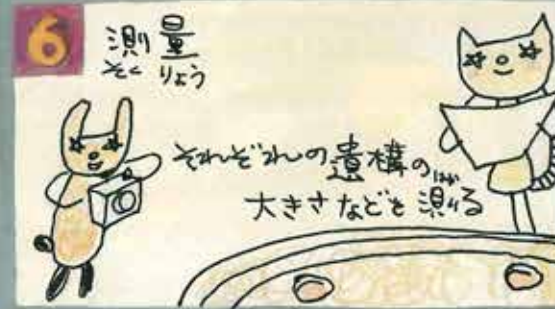
これによって、私たちの祖先の暮らしぶりや自然環境の変化を知ることができます。

発掘調査は、私たちの住んでいる地域の歴史研究や文化の発展に役立っているのです。



## 現場での発掘調査はどのようにするの？

### はっくつちようさ 発掘調査の手順





## どうして昔の家の跡がわかるの？

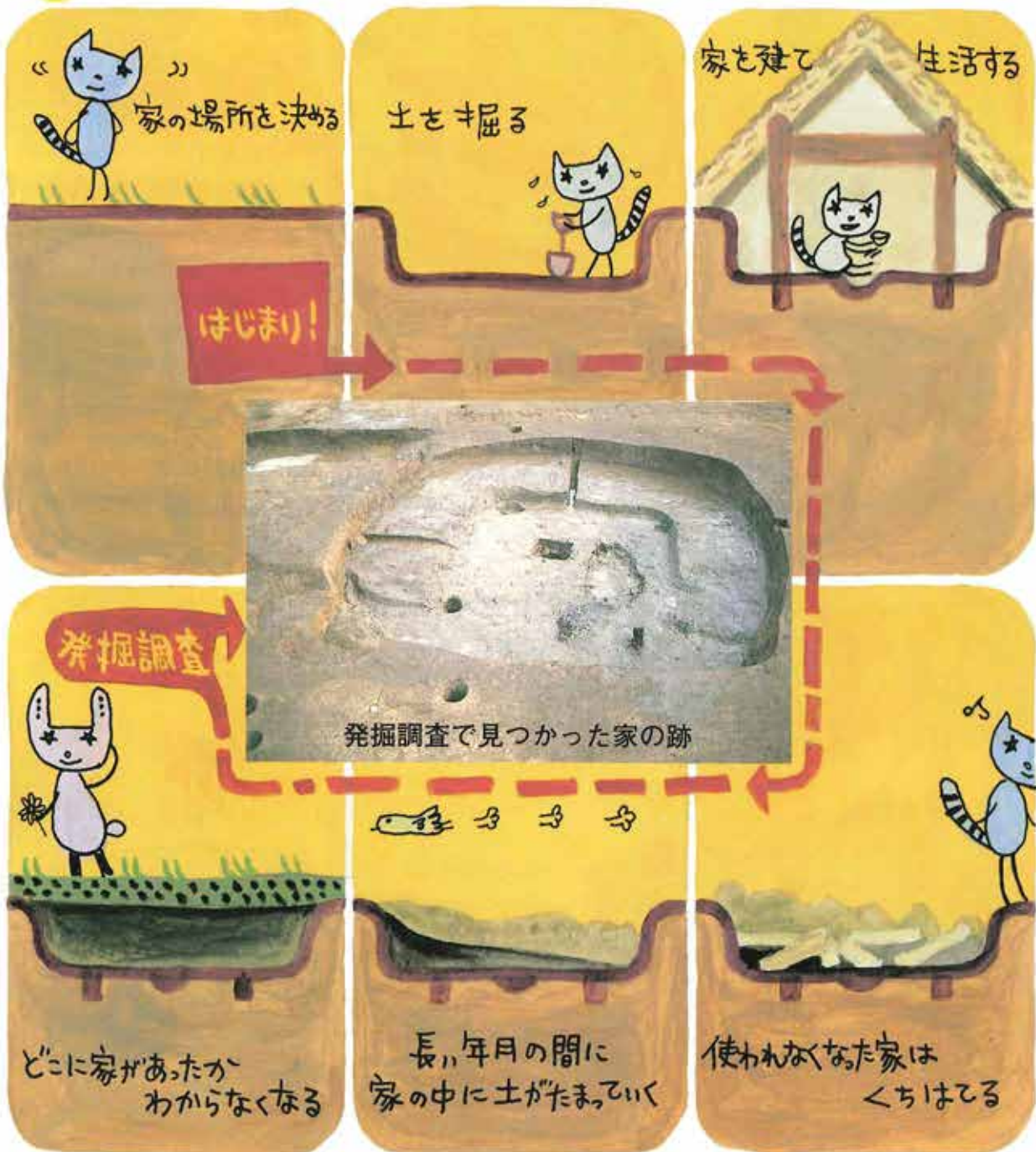
発掘現場で調査を行っている時に、調査員が最も多く受ける質問です。

調査員は次のように答えます。「土の違いで分かります。」

使われなくなった家は、長い年月の間に埋まっていきました。その土は、周囲の土と色や固さ、粒の大きさなどが違うのです。この土の違いを見つけることによって、埋まっている昔の人の家が分かってきます。調査員は土の違いを見つける目を持っています。



### 家の跡ができる過程



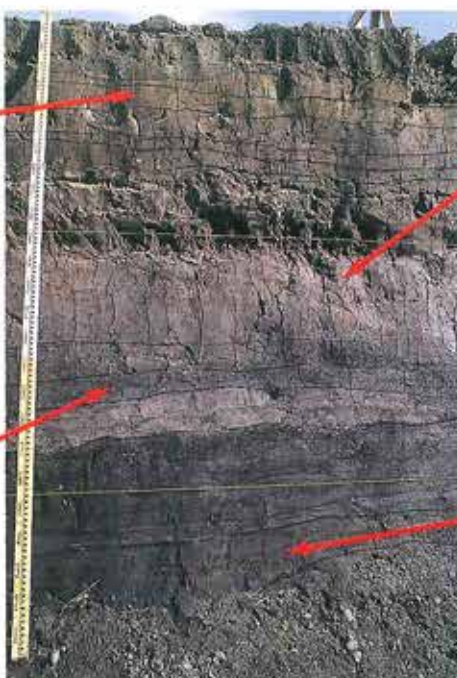
## なぜ遺跡の時代がわかるの？

遺跡の見つかった層位（\*）とそこから出てきた土器や石器などの遺物を調べることによって、その遺跡の時期を知ることができます。その他、古い時代の書物や年輪年代測定法、放射性炭素年代測定法などの化学的分析によって調べる場合もあります。

（\*）考古学では「古いもの程、下に存在する」という原則があります。



地層①  
陶磁器（近世）



地層②  
須恵器（古墳時代）



地層③  
弥生土器（弥生時代）



地層④  
縄文土器（縄文時代）

土器は、時代によって形や色、文様などに違いがあります。出土した土器を詳しく観察すると、その特徴が分かり、いつの時代のものか知ることができます。



### 縄文時代

#### 縄文土器

この時代に、日本列島ではじめて土器が使われるようになりました。表面に縄目を施すものがあることから、この名がつけました。

（写真：高松市伏石町の居石遺跡出土。縄文時代晩期）







## 弥生時代

### 弥生土器

一般的には土器の形や文様が簡素になり、実用的なものです。壺・甕・鉢・高杯などの豊富な器種がセットになり使用されました。

(写真：高松市林町のさこ・松ノ木遺跡出土。弥生時代後期)



## 古墳時代・古代

### 土師器

弥生土器の流れをくむ素焼きの土器は、古墳時代以降も使われていきます。須恵器の登場後、保水性に劣り耐熱性に優れていたことから、煮沸具が多くなります。

(写真：高松市伏石町の居石遺跡出土。古墳時代前期)



### 須恵器

古墳時代、朝鮮半島より伝わった技術を用いて作られました。窯を使って高温で焼かれるため、灰色で硬質の土器です。

(写真：高松市三谷町の石船池古墳郡出土。古墳時代後期)



## 中・近世

各地で窯で生産された土師質、須恵器などの日用品がみられます。近世になると、今の食器と同じような釉がかかった陶磁器が広く普及します。

(写真：高松市春日町の川南西遺跡出土。室町時代～江戸時代初頭)



## 出土した土器は、その後どうなるの？

埋蔵文化財の調査をマラソンにたとえると、現場での発掘調査は往路であり、完掘は折り返し地点に過ぎません。復路にあたるのが整理作業です。ゴールは、報告書の刊行であり、整理が済んだ出土品は資料館などで一般に公開されます。あまり目立ちませんが、整理作業は考古学の研究において重要な役割を果たしています。



### 整理作業の手順







## ひがしなかすじ いせき 東中筋遺跡

東中筋遺跡は、旧市街地の南側の桜町二丁目に所在し、市立桜町中学校の西側の水田にあります。調査は都市計画道路東浜港花ノ宮線の建設に伴って、平成11年度と平成12年度に行われました。

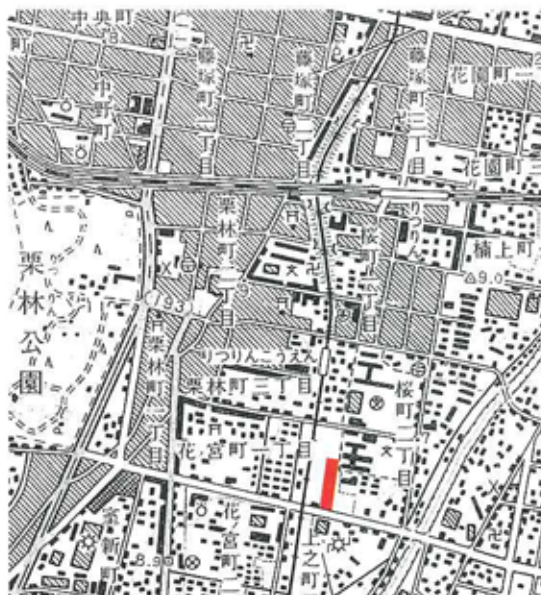
この遺跡は、古墳時代まで流れていた川の流域にあたり、縄文時代から江戸時代に至るまで遺構や遺物が見つかっています。

主な遺構には、弥生時代の水田跡、古墳時代終わり頃の溝跡、鎌倉時代の溝跡などがあります。

これらの遺構や遺跡の立地から調査地が主に耕作地として利用されていたことや、また川跡には大量の土器片が見つかることから周辺に各時代の集落があったことも考えられます。

さらに川底からは、縄文時代の終わり頃～弥生時代初頭の土器片に混じって農耕具と考えられる木製品が出土しており、初期の水稻農耕が行われていたことが推測されます。

また、縄文土器には赤色に彩色されたものがあり、貴重な資料を得ることができた遺跡でもあります。



遺跡の位置図

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」



大量の土器が出土した川跡



川底から出土した縄文土器





## もっと身近に 埋蔵文化財



高松市教育委員会では、埋蔵文化財をより多くの方々に知っていただくためにいろいろな活動を行っています。遺跡の「現地説明会」は随時開催され、小中学生を対象に行う「親子文化財教室」、瓦町駅前地下広場展示スペースでの「速報展示」、学校や自治会等を対象とした「出前文化財教室」、市内の遺跡から出土した遺物を集めた「高松市内の埋蔵文化財展」や整理作業を理解していただくための「円座整理事務所公開」などがあります。また、この「むかしの高松」やホームページ (<http://www.manabi.city.takamatsu.kagawa.jp/>) で広く周知しています。

皆さんも気軽に参加してみませんか。そして埋蔵文化財をもっと身近に感じてみてください。

↓ 高松市内の埋蔵文化財展



↓ 円座整理事務所公開



↑ 出前文化財教室



↑ 速報展

### 編集後記

今号は、“もっと身近に 埋蔵文化財”をスローガンに、日ごろ私達がどのようなことをしているかを紹介させていただきました。私達は、厳寒や猛暑の中でも毎日どこかで発掘調査をしていますので、私達の姿を見つけた時には声をかけて下さい。

むかしの高松 第15号 2002.3.29  
編集発行／高松市教育委員会文化振興課  
高松市番町一丁目8番15号  
TEL. 087-839-2636  
印刷／株式会社 中央印刷所